



当院の新型コロナウイルス感染症対応

歯学部附属病院では、すべての患者さんに安心して治療を受けていただくために、様々な感染対策を実施しています。ご不便をおかけすることもあります。ご理解、ご協力のほどお願いいたします。



病院玄関での検温・全患者さんへのアンケートのお願い

37.5℃以上の発熱がある場合や新型コロナウイルス感染者との接触等がある場合には、受診をご遠慮いただいております。当日受診できずにご不安の場合には、来院前に各診療科にお問い合わせください。



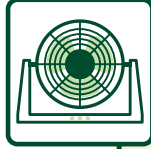
治療中の飛沫・エアロゾル対策

歯科治療には飛沫やエアロゾルの発生を伴う処置が多くあります。周囲への飛散を抑えるために、飛沫を吸引する「口腔外バキューム」を適切に使用するとともに、ユニット間の遮へい板設置も順次進めています。



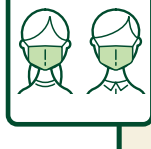
待合室も密にならないように配慮

広くはない待合室が多いですが、待合椅子の配置換えや使用できる座席の限定など、ソーシャルディスタンスが保てるように工夫しています。



換気

院内感染対策チームが各診療室や待合室の巡視を行い、換気の状態も確認しました。「空気の通り道」ができる換気の方法や、サーキュレーターの適切な設置などを指導し、診療室内の空気を循環させる環境整備を行っています。



患者さんへのお願い

来院時にはマスクを着用していただき、医療者からの指示があった場合を除き、院内では常時マスクの着用をお願いいたします。また病院玄関以外にも各階エレベーターホールや外来窓口等に手指消毒薬を設置していますので、適宜手指消毒を実施してください。



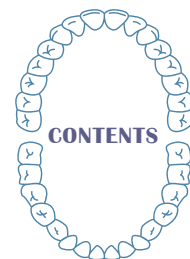
このように、当院では新型コロナウイルス感染症に対し、十分な予防対策を取って患者さんの診療を行っておりますので、安心してご来院ください。

代表電話番号 03-3813-6111 (歯学部附属病院とお伝えください)
診療日 月～金 初診受付 8:30～10:30
休診日 土、日、祝日と年末年始 (12月29日～1月3日)

初診予約デスク: 03-5803-4300
予約受付日時: 平日 12:00～16:00

編集発行: 東京医科歯科大学歯学部附属病院 (〒113-8549 東京都文京区湯島1-5-45)
地域歯科医療連携センター広報誌編集委員会 総合診療科講師 磯波 健一/看護部副看護師長 長浦 真由美/歯科衛生保健部 木村 文香
業務課 大秋 智美/広報部特任講師 宇山 恵子(撮影)/デザイン SOYA

東京医科歯科大学 歯学部附属病院通信



- 病院長のご挨拶
- 新・前病院長対談
- 当院の新型コロナウイルス感染症対応

安全安心、優しい歯科医療を続けます



新病院長メッセージ

東京医科歯科大学歯学部附属病院
水口 俊介

東京医科歯科大学歯学部附属病院は口腔外科外来、義歯外来、むし歯外来、歯周病外来、矯正歯科外来、小児歯科外来といった通常の外来のほかに顎関節治療部、歯科心身外来、息さわやか外来、スポーツ歯科外来、快眠歯科外来、摂食嚥下リハビリテーション外来といった特殊な外来を設けており、あらゆる患者さんに対応できるようになっております。また本院は、歯学部学生の臨床実習や研修医や大学院生の臨床研修の場でもあり、優秀な歯科医師を育成しております。さらに多くの臨床研究や新規材料や治療法の開発を行い、世界にその成果を発信しています。これからもせいっぱい頑張り、口の健康を通して社会に貢献していく所存ですので、一層のご支援のほどお願い申し上げます。

ご来院の皆様へ

本院は大学附属病院であることから、理念として「優れた医療人の育成に努め、患者さん一人ひとりにあった最高水準の歯科医療を提供します。」を掲げています。すなわち、良質で安全な歯科医療を提供するだけでなく、教育病院として将来の歯科医療を担う優れた医療人を育成すること、先端的歯科医療のための臨床研究や各種治験を推進することも本院の重要な使命であることをどうかご理解ください。



水口 俊介 病院長

若林 則幸 理事・副学長 (前病院長)



病院の再整備、医療安全向上、デジタル化など歯科医療の高度化に対応



—2017年4月から2020年3月までの病院長時代を振り返って

若林 病院の再整備計画、医療安全を向上させるための方策、デジタル化など歯科医療の高度化に対する対応、医療機器の更新計画、収支バランスの安定など、多くの課題をもって臨み、たくさんの職員と共にこれらの課題に取り組んできました。

任期の途中からは医学部附属病院との一体化の検討に舵を切るなど、変化の激しい環境の中で、職員全員が同じ方向性を向いて進めるように努めてまいりました。これらの課題はまだ継続中で、今後も社会からの要望や技術革新の中で、新しい課題が生まれてくるものと思います。

—水口新病院長への期待、要望

若林 水口先生は長く歯学部附属病院の要職

を務められてきたので、病院の現場の実情に詳しく、患者さんや職員の気持ちもよくわかるので、皆が生き生きと働ける職場にさせていただけるのではと期待しています。

一体化が大きな山場になると思いますが、もともと義歯外来やスペシャルケア外来など、主要な診療科の科長を務められてきたので、新しい病院の構築には適任であり、この時期に相応しい病院長になるだろうと期待しています。

要望としては、私も任期中体重が少し減りましたが、ぜひ体調管理に気をつけていただきたいと思います。

—患者さんへのメッセージ

若林 私が任期中に行ったとされる仕事は、すべて職員の誰かと一緒に行ったもので、自分一人で行ったことは一つもありませんでした。歯病の総務課、業務課のすべての職員の皆

さん、診療科長を始めとした先生方、医療職の方々、研修医を始めとした臨床研修中の若い先生方、OBを始め地域の連携病院の先生方に厚く御礼申し上げます。また、私自身が学生時代の臨床実習でお世話になったことを昨日のよう

医と歯が両輪となり日本の医療・歯科医療をけん引する病院に



—若林病院長時代に印象に残ったこと

水口 若林病院長は、この3年間という歯学部附属病院にとって最も大事な時期に、これまでの慣習や先入観にとらわれず必要な改革を積極的に推し進めてこられました。これは大変強い意志とエネルギーが必要なことです。副病院長を務めさせていただき、大変勉強になったと考えております。この路線は間違いなく引き継ぎ、さらに歯病にとって必要な改革を推し進めていきたいと考えています。

—新病院長としての抱負

水口 まずは病院としての経営基盤をさらに安定させるということです。先端歯科診療センターを象徴とする先端的で良質な私費診療をさらに拡充し、同時に近年の歯科診療報酬の改訂に沿って保険診療の稼働も上げていきたいと考えています。

次に医療安全・感染対策です。一体化によって歯病側も特定機能病院としての医療安全管理のシステムを構築しなければなりません。これは各歯科ユニットで小手術を実施しているともいえる歯科治療にとって大変困難なことではありますが、工夫し説明責任を果たせるような医療安全を構築しなければなりません。

次にスタッフの診療スキルの向上です。患者さんは本院に最高の治療と最高のサービスを求めてらっしゃいます。これには個々の診療スキルを上げることが必須になります。病院には若い向上心のある歯科医師が多くいます。彼らの

に記憶していますが、本院の患者さんは歯科医師や学生に寛容であり、自分が病院長になってそのことを再認識しました。これからも東京医科歯科大学をよろしく願っています。

希望をかなえ、それが患者サービスにつながるような方策を実施したいと考えています。

最後に一体化のことです。これまでの国立大学における歯病と医病の一体化とは全く違ったものになると考えていますし、そうしなければなりません。医と歯が両輪となり日本の医療・歯科医療をけん引する、その様な病院にしたいと考えています。

—新病院長としてのメッセージ

水口 歯学部附属病院は、もちろんコロナのこともありますが、大きな課題をいくつも抱えています。これらを順次、徐々に解決し、日本の歯科医療のフラグシップとしての役割を果たしていきたいと思っています。教職員、研修医、学生の皆さん、医科歯科大学歯学部附属病院の一員であるという誇りを持ち、いや、自分がこの病院の代表であると思って日々の業務、診療、研鑽に努めていただきたいと思います。患者さんにおかれましては、歯学部附属病院は安全安心、そして優しい歯科医療を続け発展させることを誓いますので、どうぞ安心して受診していただきたいと思います。そして私は誇りと決意をもって病院長を務めさせていただきます。

